

産科婦人科（生殖機能医学）

1. 鳥取大学医学部附属病院（本院）における担当診療科

女性診療科

2. 基本方針

1) 臨床に関して

周産期医学、生殖医学および婦人科腫瘍学の基本かつ総合的診療能力を有したうえで、さらにレベル向上を目指す。上記の研修は本院ならびに産科婦人科の教育関連病院において実施する。

2) 研究に関して

周産期医学、生殖医学または婦人科腫瘍学のいずれかの研究室に所属したうえで、臨床に基盤をおいた研究に取り組む。

3. 受け入れの身分

1) 大学院生（専門医・大学院コース）

医学系研究科博士課程医学専攻（4年制）

①社会人特別選抜（本院医員あるいは一般病院に勤務しながら入学が可能）

②一般選抜（研究の進展によっては3年または3年半で修了可能）

2) 医員（専門医コース）

3) 当科教育関連病院の医師

4. 初期臨床研修修了後の選択可能なコース

1) 専門医・大学院コース

初期臨床研修修了後、本院または当科教育関連病院で臨床研修を開始する。同時に大学院に入学し、学位研究も開始する。本院での研修期間中、希望に応じて麻酔科、NICU研修を組み込むことができる。卒後6年で専門医ならびに医学博士の学位を取得することができる。

2) 大学院コース

初期臨床研修修了後、大学院に入学して学位研究を開始する。

3) 専門医コース

初期臨床研修修了後、本院または当科教育関連病院で臨床研修を開始する。卒

後6年で専門医を取得することができる。

5. 大学院進学に関して

臨床研究の動機づけのために、卒後初期臨床研修修了後、本院ならびに／あるいは関連病院で一定期間（原則1年間）の産婦人科診療を経験するとともに、大学院に入学して、学位研究をすることが望ましい。社会人特別選抜の場合は、本院医員あるいは一般病院での勤務医の身分のままで大学院への入学が可能であり、当科大学院生のほとんどが社会人特別選抜となっている。

6. 産科婦人科において取得可能な専門医・認定医

- ・日本産科婦人科学会専門医
- ・日本周産期・新生児医学会専門医
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
- ・日本癌治療学会臨床試験登録医
- ・日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
- ・日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
- ・日本超音波学会専門医

7. 診療分野ならびに特徴ある診療内容

A. 診療分野

a) 周産期医学

正常妊娠・分娩管理、正常新生児管理、切迫流・早産、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、合併症妊娠

b) 生殖医学

卵巣機能不全、月経困難症、子宮内膜症、不妊症、不育症、生殖器先天奇形、絨毛性疾患

c) 婦人科腫瘍学

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍

d) 更年期医学

更年期障害、骨粗鬆症、ホルモン補充療法

B. 特徴ある診療内容

患者ひとりひとりにあったレベルの高い先進医療を提供する。なかでも、子宮内膜症治療や内視鏡手術、婦人科癌の集学的治療成績は国際的にも高い評価を受けている。

a) 周産期医学

- ・超音波血流計測による母体・胎児異常の予見と早期発見
- ・病態に基づいた切迫早産管理
- ・臍帯穿刺による胎児検査と胎内治療

b) 生殖医学

- ・子宮内膜症合併不妊症に対する治療
- ・体外受精・胚移植、顕微受精（ICSI）、受精卵の凍結保存
- ・不育症に対する治療（夫リンパ球免疫療法、持続ヘパリン療法）
- ・重症卵巣過剰刺激症候群に対する腹水濾過濃縮再環流
- ・内視鏡手術
- ・ロボット支援下内視鏡手術

c) 婦人科腫瘍学

- ・傍大動脈リンパ節郭清術、腸管合併切除を含む卵巣癌根治術
- ・種々の多剤併用抗癌剤化学療法
- ・子宮頸部初期病変に対する妊孕能温存治療
- ・乳線疾患の診断

d) 更年期医学

- ・更年期障害の薬物療法

8. 専門医研修施設

鳥取大学医学部附属病院のほか、当科関連の日本産科婦人科学会が定める卒後研修指導施設。

9. 産科婦人科教育関連病院（卒後研修指導施設）

-大阪府-

済生会吹田病院

-兵庫県-

公立八鹿病院

-鳥取県-

鳥取県立中央病院

鳥取赤十字病院

鳥取県立厚生病院

山陰労災病院

博愛病院

-島根県-

松江市立病院

松江生協病院

-山口県-

山口赤十字病院

-鹿児島県-

今給黎総合病院

10. 女性診療科における研究面での展開-臨床医の研究は如何にあるべきか?-

日常臨床で遭遇する症例が臨床研究の原点である。疾患に対して疑問を持つこと、疾病を何とか治したいと思うこと、副作用のもっと少ない治療法はないかと考えること、こういった気持ちが重要であり、問題解決への足がかりにでもなればと思って研究するのである。すなわち、臨床に基盤をおいた基礎研究とその成果を臨床に還元する姿勢が重要である。得られた研究成果を国内外の学会で報告して批評を受け、国際的な学術雑誌へ発表し、世界に向けて情報を発信することが大切である。当教室では、以下の研究が現在精力的に行われており、すでに世界でもトップレベルの業績がある分野も多い。

a) 周産期医学（原田崇、経遠、荒田）

- ・妊娠高血圧症候群における胎盤の病因・病態に関する研究
- ・羊膜絨毛膜炎の病態に関する研究
- ・妊娠初期絨毛におけるサイトカインの役割
- ・早産の陣痛発来機序の解明

b) 生殖医学（原田、谷口、出浦、坂本）

- ・子宮内膜症の病因・病態とサイトカインに関する分子生物学的研究
- ・卵胞発育における顆粒膜細胞内のシグナル伝達に関する研究
- ・着床機序に関する研究

c) 婦人科腫瘍学（板持、大石、島田、佐藤慎也、千酌、佐藤誠也）

- ・ 卵巣癌の化学療法耐性機序の解明と克服
- ・ 子宮体癌の発生・伸展に関与する遺伝子機能解析
- ・ 子宮頸癌の集学的治療に関する研究
- ・ 米国 Gynecologic Oncology Group とのコラボレーションによる大規模臨床試験

11. 産科婦人科における臨床ならびに研究の将来展望

当院では、産科婦人科から女性診療科に診療科名を変更した。医学の進歩に伴い、女性の *quality of life* の向上と女性の一生を総合的に考えた医療に応えることのできる診療体制が必要となったからである。今後の医学ならびに科学の進歩に伴い、診療と研究面で絶えず向上心を持ち、高いレベルを維持することが当科の目標である。

連絡先

島田 宗昭 mshima12@med.tottori-u.ac.jp